

ハザードマップの表現方法が 防災意識・防災行動に及ぼす影響

寺内夏澄

本研究の目的は、ハザードマップの表現方法が防災意識や防災行動にどんな影響を与えるのかを明らかにし、今後のハザードマップの作成の知見を得ることであった。本研究では、各市区町村が作成したハザードマップにおいて、表現方法や特徴を分析した上で、異なる特徴の組み合わせを持つ8枚のハザードマップを比較してもらい、避難方向の分かりやすさ、避難所の位置の分かりやすさ、危険箇所の位置の分かりやすさ、災害発生の危険性の分かりやすさ、災害の発生状況の分かりやすさの5つの質問ごとに5段階の評価をつけてもらうことで、どのような表現方法が受け手にとって分かりやすく、防災意識や防災行動に効果的な影響をもたらすのかを調べた。

その結果、避難方向を示す記載があり、尚且つ伝えたい情報が他の情報に埋もれてしまわないように色や言葉を工夫しているマップが、総合的に分かりやすいと評価されることが明らかとなった。これらの結果からどのような情報を最優先に伝えたいのかにはよるが、避難方向を最優先で伝えたい場合は、矢印等で直接的な表現方法を用いたり、危険箇所の位置を優先して伝えたい場合は、言葉や危険マークなどの直接的に表現したり浸水深の色で危険性を伝えたりなど、伝えたい情報を色や言葉などで工夫して記載することで、防災意識や防災行動に効果的な影響を与える可能性があると考えられる。また、情報が多ければ多いほど分かりやすいマップであるということは断言できず、情報量の多さや内容の細かさだけでなくハザードマップに使われる色や言葉によっても分かりやすさに左右されると考えられるが、本研究ではどの程度それらが分かりやすさの判断に影響をもたらしているのかを明らかにすることができなかつたため、その点については今後の課題としたい。